

安全対策連絡協議会

平成27年 1月23日（金）

於在マルセイユ日本総領事公邸

1. 開会挨拶（胡摩窪首席領事）
 2. ブーシュ・デュ・ローヌ県警察本部 COUDERT 次長による、当地治安情勢についての説明
 3. 当地治安情勢についての説明（菊池領事）
 - （1）パリ及び同近郊発生テロ事件について（補足説明と今後について）
 - （2）シリアにおける邦人誘拐事件の発生について
 - （3）一般犯罪発生状況：報道、邦人被害
- 適宜、お気軽にご質問やご意見をお話し頂ければ幸いです。
4. 出席者の皆様からの情報提供、質疑応答
 5. 総括（佐藤総領事）

※本日この協議会で話題に上った事柄のうち在留邦人全体で共有すべき情報につきましては、情報提供者や被害者等の個人が特定されない範囲で取りまとめ、当館HPに掲載させて頂きますことを予めご了承下さい。

COUDERT ブーシュ・デュ・ローヌ 県警察次長による治安講話（要約）

1. 我が県警は7日発生のテロ事件以降、休暇中の警官も招集し全員体制で治安維持に当たっている。テロ発生後は配置人員を従来の20～30%増としており、同じ警察組織ではあるがこれに加え機動隊も増員してマルセイユ北地区等の優先治安地区の「見せる警戒」に当たっており、また憲兵隊や軍もそれぞれ増員配置をしている。私自身先週末マルセイユ中心街を回った際、自分で配置指示をしておきながら治安官憲のあまりの多さに驚いたほどである。この体制は少なくとも2、3週間は続けることとなる。

重点的に警戒しているのは、ショッピングモール等の人の出入りの多い施設や公道・公共交通機関である。この他、市内に52カ所あるユダヤ教会、約20カ所あるユダヤ人学校も重点警戒対象としている。マルセイユはヨーロッパで3番目にユダヤ教徒の多い街と言われており、これら施設はテロのターゲットになりやすいと認識しているからである。

2. 今回のテロ事件発生以後、愉快犯や模倣犯の出現、ユダヤ・イスラムコミュニティの対立や嫌がらせ、一般犯罪の増加等については、同事件に便乗した模倣犯もいたずら等もこれまで発生していない。ユダヤコミュニティとイスラムコミュニティの対立や暴動等、テロ事件を受けての緊張の高まりも一切ない。双方とも節度を保って冷静に行動していると言える。また、全警察力をテロ警戒に充てているところ、この「見せる警戒」が一般犯罪の発生抑止にもなっており、貴殿が懸念するような状態にはなっておらず、現状は平穏であるといえる。

3. マルセイユは仏国内では治安の悪い街と言われてきた。しかし、現本部長が就任した2年前に軽犯罪の取り締まり強化を打ち出したことが奏功し、犯罪発生件数を年々減少させ、特に路上強盗やひったくり、空き巣の発生件数を激減させることに成功した。

但し、薬物犯罪については現在も奮闘中である。マルセイユ北にある低所得者層が暮らす所謂「シテ地区」では、我々が数ヶ月に渡る内偵捜査や末端売人の検挙を積み重ねて捜索差し押さえや関係者を逮捕しても、別の組織がその座にすげ代わることから終わりの見えない戦いが続いている。現在は機動隊に同地区を重点警戒させることで薬物搬入・売買を抑止しつつ、引き続き内偵捜査を行っているところである。

4. 我々警察等の治安機関が重点的に警戒している対象は、ショッピングモー

ル等の人々が多く集まるところや公道、公共交通機関などであると先に話したが、これはテロ対策もさることながら、これらの場所で一般犯罪を抑止することがマルセイユの治安向上に非常に重要だと考えているからである。現警察本部長が就任した2年前から所謂軽犯罪の取締り強化を行ってきた。街頭をパトロールする警察官（バイク、自転車、徒歩）を増員してきた結果、路上強盗やひったくりの発生が激減する成果が上がっている。

5. マルセイユは防犯カメラ設置台数が非常に多い都市である。カメラの稼働管理をしているのはマルセイユ市役所であり、各種犯罪発生率の高い市内中心部に多く設置の上、24時間体制で職員が同映像に目を光らせている。残念ながら故障等により全てのカメラが稼働している訳ではないが、これまで防犯カメラ映像の解析によって犯人を特定・検挙できた事例は枚挙に暇がない。また、カメラを街の至る所に設置したこと自体が犯罪発生を抑止していると見られる。

<当地治安情勢について>

1. パリ及び同近郊発生テロ事件について（補足説明と今後について）

（1）事件概要

① 週刊誌事務所テロ事件

- ・ 1月7日昼前、パリ11区「シャルリー・エブド」社に武装した男2名が侵入し、12名を射殺、11名を負傷させ車で逃走。
- ・ その後、犯人らは車を乗り換えて逃走を続け、ガソリンスタンドを襲撃する等した後、印刷会社内に立て籠もり、9日夕方、憲兵隊突入時に射殺された。

② モンルージュ銃撃事件

- ・ 1月8日早朝、パリ南部モンルージュで交通事故捜査に従事していた警察官2名が男1名に銃撃され、後に1名が死亡した。
- ・ 9日、上記犯人がユダヤ食料品店に押し入り人質を取って立て籠もった。
- ・ 同日夕方、警官隊による突入時に射殺された。

（2）事件発生による影響等

- ① イル・ド・フランス州におけるテロ警戒レベルが最大レベル（攻撃の警戒）に引き上げ。
- ② 犠牲者追悼行進が国内各地で行われ、数百万人が参加する大規模なものに。
- ③ 治安官憲による国内の警戒が強化。
- ④ シャルリー・エブド紙「生存者号」表紙の風刺画に対し、世界各地のイスラム教徒が抗議デモを展開。ニジェールではイスラム教徒の暴徒化により10名が死亡。日本でも、同紙表紙の風刺画を転載した新聞社に対する抗議行動が起こる。

（3）仏政府による今後のテロ対策

- ① 今月16日、昨年11月13日成立のテロ対策法が施行。これにより、
 - ・ ジハーディストとして外国渡航しようとする者の旅券押収が可能に。
 - ・ 仏滞在許可証ある外国人でテロリストと疑われる者の仏再入国拒否が可能に。今後は盗聴等、新たな情報収集に関する法律を検討する予定との報道あり。

② 21日の閣議で以下の方針が決定した由。

- ・今後3年間で2,680人のテロ対策要員を増員（うち約4割は情報部門）するとともに、防護資機材を整備する。全体の予算規模は3年間で4億2,500万ユーロ（約580億円）。
- ・組織犯罪対策とテロ対策の連係、刑事施設内における監視、インターネット通信に対する監視等を強化することで、過激化の防止を目指す。

(4) 今後のリスク

現在、特にパリ周辺では警戒レベルが最高となっていることから今時発生したようなテロ事件が近々再発する可能性は低いと思われま

す。しかしながら、「シャルリー・エブド」社を狙ったテロ事件一つ取っても火種がなお燻っていることから、ほとぼりが冷めた頃を狙ってイスラム過激派がテロ事件を起こす可能性は非常に高く、悲劇の再発如何はテロリストの動きを治安機関が未然に把握できるか否かに掛かっているといえま

す。

リスク① 仏国内における、イスラム過激派の攻撃対象を狙ったテロ事件
(ユダヤ教系施設、イスラム教冒涇団体、等)

例：昨年5月下旬発生、ブリュッセル市内ユダヤ人博物館でのテロ事件

リスク② 仏国内における、無差別テロ事件

(大型商業施設、公共交通機関、大規模イベント会場等)

例：アヴィニョン演劇祭爆破テロ計画、
ニースのカーニバルでの爆破テロ計画

(5) 我々が執るべき行動方針

今回の発生現場はパリ周辺でしたが、南仏においても今後テロが起こらないとは言い切れません。こういった事件は突如発生する可能性が高いため、日頃からの入念な準備が必要と考えます。

① 当館の取り組み

当館では、いつ何時緊急事態が発生しても邦人援護のため即時対応できるよう、以下に重点を置いて業務を推進して参ります。

- ・治安に関する情報の収集・分析 →邦人の皆様との情報共有
- ・各地のカウンターパート（治安官憲）作り
- ・在留邦人情報の把握と更新（安否確認時に必須）
- ・日系企業、邦人団体との連携強化
- ・各地の「軸となる在留邦人」との協力体制構築

② 在留邦人の皆様へのお願い事項

緊急事態対策は当館の最重要課題であり平素より改善に努めておりますところ、同取り組みは皆様のご協力なしには達成できません。以下につきご協力頂きますよう、よろしく申し上げます。

- ・在留届情報の更新（特に住所、電話番号、メールアドレス）
- ・治安関連情報（噂や「兆し」でも結構です）入手の際の、当館への情報提供

（当館にて、頂戴した情報の真偽及び詳細につき確認作業を行います）

- ・緊急事態発生時の、「消息不明邦人」情報の提供
例：立て籠もり事件発生都市に住んでいる友人と連絡が取れなくなった、等
- ・生活圏内にある「治安官憲警戒施設」の確認
（今後同所警戒態勢が縮小された場合に、テロ対象となる恐れがあるため）

<在マルセイユ日本国総領事館の連絡先>

メール：cgm8@my.mofa.go.jp

電話：04 91 16 81 81

（受付時間 9：00～12：30、13：45～17：00）

※受付時間外の場合でも、緊急連絡事項がございましたら当館電話番号までご連絡願います（委託会社経由で領事担当官が当該事態を把握します）。

2. シリアにおける邦人誘拐事件の発生について

(1) 海外安全HP掲載の、渡航情報（広域情報）

＜シリア邦人拘束事案を受けた注意喚起＞（1月22日付）

1月20日、イスラム過激派組織のISIL（イラク・レバントのイスラム国）を名乗る人物がインターネット上で、シリアで行方不明となっていた日本人と見られる人物2名の殺害を予告する等の映像を発出しました。

映像の人物は、日本が十字軍戦争への参加を志願し、ムスリムの女性や子供を殺し家を破壊するため、また、イスラム国の拡張を止めるため、ジハード戦士に対して背教者を訓練するために、寄付をしたなどと述べています。

つきましては、上記のような情勢に十分に留意し、誘拐、脅迫、テロ等の不測の事態に巻き込まれることのないよう、各地域の特徴を踏まえた上で、外務省が発出する渡航情報等及び報道等により最新の治安情勢等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに、状況に応じて適切な安全対策が講じられるよう心掛けてください。

なお、シリアについては、全土に「退避を勧告します。渡航は延期してください。」の危険情報が発出されており、また、シリアにおける取材について、報道各社等に向けて注意喚起を発出しています。

(2) 今後注意すべきこと

今回の事件で、日本がテロのターゲットに含まれていることが再確認された形となりました。

数あるテロ脅威のうち「誘拐」については、中東・アフリカにいる方々と比べて我々の身に降りかかるリスクは少ないように思われますが、今回のパリのテロにより仏国内にも多くのテロリストやテロリスト予備軍・支援者がいることが明らかになっていることから、今後仏国内発生・仏国内幽閉型の誘拐・立て籠もりが起こらないとも限りません。

つきましては、これまで以上に「自分達が外国人」であることを自覚し慎重な行動をされますよう、お願い申し上げます。

具体的には、「治安上危険とされている国・地域に渡航しない（海外安全HPご参照）、「公共の場での民族・宗教に関する発言を控える」等で。判断に迷う場合は、当館までご相談下さい。

3. 一般犯罪発生状況：報道、邦人被害

(1) 昨年中、当館把握の邦人盗難件数

① 盗難 56件

(被害手口) スリ20件 置引18件 ひったくり9件 車上狙い7件
空き巣1件 忍び込み1件

(被害場所) ニース21件 マルセイユ13件 エクス5件 カンヌ3
件 他

② 強盗 4件

(被害手口) 路上強盗3件 店舗強盗1件

③ 詐欺盗 1件

(2) 邦人被害事例

① ニース発生、在留邦人宅における空き巣事件

邦人女性がい物に出掛けている間、何者かが自宅アパートに侵入し、現金や貴重品を盗んでいった。

② エクサンプロヴァンス発生、在留邦人宅への忍び込み事件

一家が自宅アパートで就寝中、何者かが室内に忍び込み、家人のいない部屋にあった現金や貴重品を盗んでいった。

③ エロー県内発生、邦人の働く飲食店での強盗事件

閉店間際のレストランに複数の男らが押し入り、銃で従業員を脅し付けて店の売上金を奪っていった。

④ マルセイユ発生、観光客を狙った路上強盗事件

邦人旅行者が撮影スポットを求めて裏路地に足を踏み入れたところ、ナイフを持った男達が道を塞ぎ、現金等を脅し取った。なお、邦人は抵抗した際手に軽傷を負った。

⑤ マルセイユ発生、駅～ホテル間での路上強盗事件

夜にサン・シャルル駅に着いた邦人旅行者が予約していた駅周辺のホテルを探して裏道に入ったところ、男数名が後方から忍び寄り邦人を羽交い締めにし、たすき掛けしていたバッグをナイフで切断し強奪した。

⑥ マルセイユ発生、催涙スプレー使用の路上強盗事件

短期滞在中の邦人男性が自転車で市の外れを走行していたが、地図を確認するため一時停止した際に、突然現れた男が催涙スプレーを吹きかけた。その後の揉み合いの末、男は邦人の持っていたポーチを奪い逃走した。

(3) 情報共有しておくべき事件

① マルセイユ発生、車による路上封鎖強盗

11月11日22:15ころ、レストランを経営する男性が車で帰宅中、9区自宅付近の Lattre de Tassigny 通り上で別の車に道を塞がれ、停車したところを銃で脅し付けられた。犯人グループは男性の車に乗り込み、2台で人気のないカラנק Sugiton 方面へ移動した後、男性の所持品を強奪し、さらに男性と車にガソリンを撒いた。男性は命からがら逃走することに成功したが、警察が駆け付けるまでの間に男性の車は燃やされていた。

【ポイント】このような事態に遭遇した場合、状況が把握できなくても絶対に車から降りないこと。可能であれば素早い現場離脱を心掛けること。

② エクサンプロヴァンス発生、念入りな下調べ済とみられる邸宅強盗

10月14日22:30ころ、4人組の武装強盗がエクス北部の邸宅に押し入った。この時、レストランを経営する家主夫婦は帰宅しておらず、犯人らは家で留守番していた15歳の少年を捕まえると邸内を物色して回り、現金や宝石類・バイクなどを奪って逃走した。

③ アルプ・ド・オート・プロヴァンス県発生、強盗殺人事件

9月16日深夜から翌未明にかけて、シストロンから数km離れた村外れの一軒家に強盗団数名が押し入り、一家3人を監禁した。抵抗した父親は犯人らの返り討ちに遭い、後刻死亡した。強盗団は宝石類を奪って逃走。憲兵隊によると本件犯行は周到に計画されたものであり、一家が外部に助けを求められないよう電話線を切断された跡などが見つかった。

【ポイント】不幸にも強盗被害に直面した場合、自力で現状打破することは諦め、無抵抗に徹すること。

④ ロット県ジニャック発生、強盗未遂事件

8月18日深夜、覆面をした4人組の男が一戸建住宅に押し入り、刃物で一家4人を脅しつけ金品を要求した。幸い、隣人が騒ぎを聞きつけ駆け付けたことから犯人らは慌てて車で逃走した。この事件で父親が手に傷を負ったが命に別状はなかった。

【ポイント】最良の防犯対策は隣人との連携だと言われている。近隣住民との良好な関係構築を。